文字列関数で勝ち点を計算する

それでは、まず「試合結果」のシートのデータをもとに、「勝ち点」のシートに、試合ごとの勝ち点を表示する表を作り ましょう。

1. ワークシートの見出しから、「勝ち点」をクリック

文字を取り出す

試合結果では、勝ち・引き分け・負けは、「」「」「」であらわされています。

しかし、「試合結果」のシートでは、「3 2」のように、得失点も同じセルに入力されています。まず、**セルから'」** 「」「」の文字を取り出しましょう。

文字を取り出すには、いくつかの方法があります。LEFT関数とRIGHT関数を組み合わせることもできますが、ここでは、 MID関数を使うことにします。

MID (文字列の指定した位置から指定した数の文字を返す)

● 書式:LEFT(文字列,文字数)
 ● 引数:文字列:文字を取り出したい文字列やセル
 ● 引数:開始位置:取り出したい文字列の先頭文字からの位置
 ● 引数:文字数:取り出したい文字数
 ● 例:C7セルの文字列の3文字目から2文字分の文字列を取り出す

試合結果は「32」のようになっているので、MID関数を使って、「**左から2文字目から1文字分取り出せ**」ば、記号を取り 出すことができます。

では、次のようにして、関数の機能を試してみましょう。

- 1. B2セルをクリック
- 2. 数式バーの「関数の挿入」ボタンをクリック

3. 利用する関数の選択

- ○「関数の分類」から「文字列操作」を選択
- ○「関数名」から「MID」を選択
- ◦「OK」ボタンをクリック

4. 引数の設定

- ○「文字列」の入力欄をクリックし、「試合結果」のシートの見出しをクリックした後、B2セルをクリック
 (自動的に「試合結果!B2」と入力される)
- ○「開始位置」の入力欄をクリックし、「2」と入力
- ○「文字数」の入力欄をクリックし、「1」と入力
- ○「OK」ボタンをクリック

関数の引	敳				?×			
-MID	文字列 開始位置 文字数	[] [■ 文字列 ■ 数値 ■ 数値 				
= 文字列の指定した位置から、指定された数の文字を返します。半角と全角の区別なく、1 文字 を1 として処理します。								
文字列には検索の対象となる文字を含む文字列を指定します。								
数式の	結果 =							
2088	数のヘルプ(H)	1		OK	キャンセル			

記号を取り出すことができましたか?

条件判断をする

記号を取り出しただけでは、勝ち点を計算することができません。勝ち点は、次の表にしたがって計算されます。

勝敗	勝ち	引き分け	負け
記号			
点数	3点	1点	0点

このように、記号にしたがって、表示する点数を変えるようにしましょう。

ある条件ごとに処理を変える、「条件判断」をするには、IF関数を使います。

IF(指定された条件(論理式)が合っているか(真)違っているか(偽)を判断し、真と偽のそれぞれの場合の結果を 返す)

●書式:IF(論理式,真の場合,偽の場合)

○ 引数: 論理式: 評価する条件(比較演算子を使う)

○ 引数:真の場合:論理式の結果が真(TRUE)の場合に返される値

○ 引数 : 偽の場合 : 論理式の結果が偽(FALSE)の場合に返される値

。例:D1セルの値が0なら"ゼロ"を、0でないなら"ゼロじゃない"と表示

=IF(D1=0,"ゼロ","ゼロじゃない")

論理式には、次のような**比較演算子**を使います。条件を正しい場合は「TRUE」(真)、正しくない場合は「FALSE」 (偽)と判断します。

演算子 式		内容	例	結果
= (等号)	A=B	AとBが等しい	1=2	FALSE
<> (不等号)	A<>B	AとBが等しくない	3<>4	TRUE
>(~より大きい)	A>B	AがBより大きい	5>6	FALSE
<(~より小さい)	A <b< td=""><td>AがBより小さい</td><td>7<8</td><td>TRUE</td></b<>	AがBより小さい	7<8	TRUE
>=(~以上)	A>=B	AがB以上である	9>=10	FALSE
<= (~以上	A<=B	AがB以下である	11<=11	TRUE

MID関数とIF関数を使えば、「**試合結果から勝敗の記号を取り出し、記号にあった勝ち点の数字を表示させる**」ことができます。

鹿島アントラーズの第1節の勝敗は、次のように考えられます。

つまり、B2セルの計算式は、次のようになります。計算式のどの部分がIF関数の式で、どの部分がMID関数の部分かに注 意して、計算式を入力してください。

=<mark>IF(</mark>MID(試合結果!B2,2,1)="",3)

関数をネストにする

このままでは、勝ちの場合の勝ち点は表示できましたが、引き分けや負けの場合の点を表示できません。

さっきの式、

=IF(MID(試合結果!B2,2,1)=" ",3)

では、IF関数のなかで、MID関数を使っています。

このような関数の中で別の関数を使うことを、「関数のネスト」といいます。

MID関数を使った「」や「」を取り出す部分を、IF関数の中に追加してみましょう。

すると、鹿島アントラーズの第1節の勝敗は、次のように考えられます。条件が偽の場合に、もうひとつIF関数を使うのがポイントです。

(条件)B2セルから取り出した記号が (条件が真) ならば「3」を表示する (条件が偽)(追加条件)B2セルから取り出した記号が (条件が真) ならば「1」を表示する (条件が偽)「0」を表示する

つまり、B2セルの計算式は、次のようになります。計算式のどの部分がどの関数の式なのかに注意してください。

=IF(MID(試合結果!B2,2,1)="",3,IF(MID(試合結果!B2,2,1)="",1,0))

計算ができたら、計算式を他のセルにコピーしましょう。<u>第6回の内容</u>を参考に、「**オートフィル**」機能を使って、B2~ AE19セルに計算式を、コピーしましょう。

	B2	▼ fx	=IF(MID(試	合結果:B2;	2,1)="0",3	,IF(MID(試合	合結果:B2,2,	,1)=‴∆″,1,0)))
	A	ι	В	С	D	E	F	G	H
1			第1 節	第2節	第3節	第4節	第5節	第6節	第7節
2	鹿島アントラー	ーズ	3	3	3	6	7	8	
2	*電手口 ・・・・ ブ		°	6	0	10	15	15	

<u>次へ</u>進んでください。

}}